

附属養護学校におけるネットワーク活用状況と将来構想

教育学部附属養護学校 島田 勝浩

1 はじめに

附属養護学校には、本年度4月に、文部省「光ファイバー網による学校ネットワーク活用方法研究開発事業」により、1.5Mbps の高速光ファイバー回線と Macintosh インターネットサーバ(AppleShareIP 6.1)が導入され、ようやく本格的なネットワーク環境が整った。これまで一般の ISDN 回線で、コンピューター室に配置された10台のコンピュータのうち2台のみがインターネットに接続可能だったことを思うと、夢のような環境である。

2 現在までのネットワーク活用状況

(1)メディアキッズとチャレンジキッズ

本校では、平成9年度より「メディアキッズ」という学校間交流ネットワークに、また平成10年度より「チャレンジキッズ」という特殊教育諸学校・障害児学級間交流ネットワークに参加してきた。メディアキッズには、全国の小・中・高等学校や特殊教育諸学校あわせて105校が参加している(平成11年3月現在)。またチャレンジキッズには、27の全国の特殊教育諸学校・障害児学級が参加している(平成10年3月現在)。

この2つのネットワークは、「FirstClass」という通信ソフトを利用した会員制のネットワークである。インターネット網を利用して接続しながら、限定されたメンバーしか関わることのできないこの環境は、プライバシー保護のあり方などをまだ充分理解していない子どもたちにとって、ネチケット(ネットワーク・エチケット)等を「安心して学べるネットワーク上の教室」として大きな役割を果たしている。また、GUI(グラフィカル・ユーザ・インターフェイス)のソフトであり、アイコンなどは管理者が自由に設定できるため、子どもたちにとって親しみやすいものとなっている。

メディアキッズ・チャレンジキッズの実践の詳細については、次のような出版物が出ているので、興味を持っていただいた方は是非ともご覧いただきたい。

○メディアキッズの冒険

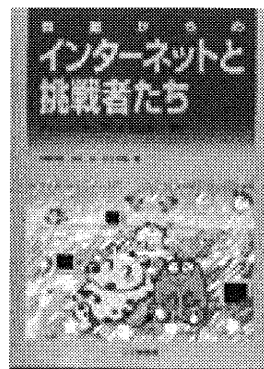
インターネットによる教育実践の記録

(新谷隆・内村竹志 著、NTT 出版)

○教室からのインターネットと挑戦者たち

チャレンジキッズによる出会い・学び

(佐藤尚武・成田滋・吉田昌義 編、北大路書房)



(2) ホームページづくりの取り組み

また、平成10年度からは、高等部の生徒たちによって www のホームページづくりも試みられた。

生徒たちは、身の回りのことや自分たちが興味をもって調べたことなどを、コンピュータでテキスト入力し、説明のための絵を描いたり、デジタルカメラで写真を撮ったりして添付し、ホームページの形に仕上げてきた。

このページが、先日 NTT 主催のこねっとホームページコンテストで優秀賞を受賞し、賞状と副賞のデジタルビデオカメラをいただいた。特殊教育諸学校としては唯一の受賞である。

(3) これまでの問題点

「1 はじめに」で触れたように、これまではインターネット環境という点では、それほど恵まれた環境ではなかったため、十分に子どもたちにネットワークを利用させられないでいた。メディアキッズ・チャレンジキッズにしても、実際に子どもたちが関われる場面は少なかった。

しかし、今回の環境整備にともなって、より踏み込んだ利用が可能になってきた。

3 新しい取り組み

(1) 本校ホームページの充実

インターネットサーバが新しく設置されたことにより、これまで置かせていただいていた教育学部附属教育実践総合センターのサーバから、コンテンツ等を新しいものに入れ替えてホームページを移設した。その中で特に力を入れているのが、動画の掲載である。

Apple の「QuickTime」の技術を利用して、各種行事等のビデオでの記録映像をムービー化してホームページ上に載せている。これまでの文章と静止画だけのものと比べると、動きのある分その時の様子が伝わりやすいという利点がある。

「動きのある」ホームページという点では、CGI の利用などにも目を向け、現在その効果的な利用の仕方を探っているところである。

(2) 「インターペディア」をつくろう！

また、ホームページを利用した新しい取り組みにも着手している。それが「インターペディア」づくりである。インターペディア(正式にはインターネット・エンサイクロペディア)とは、子どもたちが興味をもったものなどを項目にしていき、それについての説明(文章・絵・写真など)を付加していくことで作り上げるという、ホームページ上に展開する手作りの百科事典である。

今のところ、本校高等部の生徒が中心になっているが、現在全国の小・中・特殊教育諸学校に協力を呼びかけているところで、百科事典づくりを通じた全国的な子どもたちの交流への発展をめざしている。

また、各項目からは、それに関係する一般のホームページへのリンクを設定してあり、その協力のお願いとそれに対する返事でのやりとりなどを通じて、まだまだ一般社会から遊離している感のある障害児教育への理解を得つつもある。



(3) 授業でホームページを見る

高等部では、週2回ある音楽の時間のうち1回は、コンピュータを使ってリズム遊びをしたり、たくさんの音楽に触れるという活動をしている。その際に、いろいろなホームページを見て回っている。先日も、オルゴールのことが詳しく書かれていて、普段見ることのできない値段の高いオルゴールなどの音色を実際に聞くことができるページを見た。

また、作業学習という時間では、5つある作業班のうちの「彫刻・リサイクル班」で、いつも取り組んでいる空き缶つぶしの作業との関連で、空き缶のリサイクルに関するページを見て、自分たちのつぶした缶が実際どうなるかを知った。

これらの活動は、子どもたちの意欲づけを促す意味で、また自分たちの活動に見通しを持つ意味で、大きな効果を挙げた。

4 これからの構想

このように、徐々にではあるが着実に取り入れられつつある障害児教育でのネットワーク利用を、さらに充実したものとすべく、今後の活用の目玉として、「FirstClass サーバの導入」と「各教室から自由にアクセスできるネットワーク環境の整備」を柱に、次のようなことを考えている。

- 校内でのネットワーク体験学習
- メディアキッズ・チャレンジキッズとの連携
- 県内の特殊教育諸学校・障害児学級との連携

これまでネットワークというものに関わったことのない子どもたちのために、プライバシー保護などに気を使うことなく、ネットワークとはどういうものかを体験してもらえよう、FirstClass を利用した校内専用のネット

ワークを構築する。そのためには、いつでも気軽にコンピュータに触れられることが重要であり、各教室にコンピュータを整備し、校内ネットワーク体制を充実させていきたい。

また、すでにこのソフトを使って多くの成果を上げているメディアキッズ・チャレンジキッズのメインサーバとゲートウェイすることで、両者と連携をはかり、遠くの友達とやりとりできる素晴らしさを体験してもらいたい。

そして最大の取り組みとして、県内の特殊教育諸学校・障害児学級に呼びかけ、そこに関わる子ども・教師が様々な情報交換や意見交流をはかれる場を提供していくことで、本校および県内の障害児教育現場の一層の発展をめざしていきたい。